

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成29年9月30日現在

今月の重点活動

■岐阜市園芸振興会GAP運営委員会 JGAP先進地視察研修会開催

9月5日、岐阜市園芸振興会GAP運営委員会（だいこん、ほうれんそう、えだまめ、いちごの代表役員）は、JAぎふ、関係市町村（岐阜市、山県市、瑞穂市）の担当者等とともに、揖斐川町の農事組合法人桂茶生産組合を視察し、GAPの取り組みについて情報収集を行った。



【視察の様子】

この視察は、生産者及び関係者のGAPへの理解促進と意識醸成を図る目的で、揖斐農林事務所の協力も得て開催したもので、JGAP認証取得のきっかけや進め方などの話を聞いた後、実際に茶工場で取り組んでいる表示方法などを確認した。参加した役員からは、「片手間ではできないことではない」「認証を取るなら、真剣に取り組まないと難しい」などの感想が聞かれた。

今後も、農業普及課では、GAPに関する研修会等を通じて、GAPに対する意識醸成やステップアップに向けて支援していく。

（園芸産地支援第一係・高橋幸蔵、三和浩一、川部 知）

多様な担い手づくり

■トマト 新規就農者が産地盛り上げる！（糸貫トマト振興会）

平成28年度糸貫トマト振興会総会（会員6名）が、9月12日に開催された。

昨年度、就農支援センターの卒業生1名が就農したこともあり、出荷数量は前年比の162%と大きく伸び、売上額も1億3千万円を超えた。本年も、就農支援センターの卒業生が新たに1名加入し、平成30年度にも就農予定者があることから、今後の振興会の発展が期待される。

農業普及課からは、一部農家で定植後まもなく、すすかび病の発生が見られた農家もあり、初期防除（予防）の徹底と、記帳管理について指導した。今後も、定期的な勉強会の開催で支援する予定である。

（地域支援第三係・野村康弘）

■えだまめ 第4回えだまめ塾開催

9月12日、JAぎふ曾我屋選果場において、えだまめ塾生3名を対象に、農業普及課とJAぎふが連携し、第4回えだまめ塾を開催した。普及指導員から、農薬使用方法や総合的な病虫害防除の考え方などについて説明した後、塾生から質疑応答を行った。除草剤の使用方法や防除時期、経営試算など様々な質問について順次説明を行い、参加した塾生からは「大変参考になった」などの感想が聞かれた。



【えだまめ塾の様子】

今回参加した3名の内、1名は今年えだまめ部会に加入し、1名は家庭菜園の延長ではあるが栽培を増やしていきたいとのこと。また、1名は将来就農したいと、熱心に受講していた。

農業普及課では、関係機関と連携し、新規栽培者の確保等に向けて今後も支援していく予定である。

（園芸産地支援第一係・川部 知）

売れるブランドづくり

■羽島市営農組合連絡協議会 水稻出穂後の管理・適期収穫を検討

9月8日、羽島市内の6営農組合で組織する羽島市営農組合連絡協議会が開催され、市、JA担当者とともに、羽島市内の大規模乾燥調製施設（カントリーエレベーター）の稼働計画等について検討した。



【連絡協議会の様子】

農業普及課から、品種及び作型別に、今年度の生育状況を報告し、今後の管理について指導するとともに、今年の気象を考慮した収穫期予想を報告した。また、営農組合の複合化経営の推進の

ため実施している、園芸品目導入に対応した作業計画の組み方について情報提供した。

今後、希望する営農組合には、実態を把握しながら分析・検討する予定であり、協議会を通じて、現地の状況を踏まえた適期収穫の指導を行っていく。

(地域支援第二係・今井啓司)

■ブロッコリー 10周年記念大会開催

J Aぎふブロッコリー生産連絡協議会は、ブロッコリー栽培を開始して10年経過したことを機に、8月29日に10周年記念大会を開催し、生産者、関係機関等約100名が参集した。

最初に、長期出荷者、出荷量の上位者に対して表彰を行い、その後の記念講演では、種苗会社担当から、品種特性や栽培ポイント、各産地動向について貴重な情報を聞くことができた。

農業普及課からは、当面の管理ポイントを説明しながら、ほ場準備や活着の良し悪しの重要性を伝えた。大会中は笑顔にあふれ、今後のやる気につながる良い機会となった。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【表彰の様子】

■だいこん 祝だいこん栽培研修会開催

9月15日、J Aぎふ則武支店において、祝だいこんの栽培研修会が開催され、生産者やJ A担当者など約40名が参加した。

まず、J A全農岐阜担当から、大阪市場からの要望量や競合産地の動向などの情勢報告があり、J Aぎふ担当からは、今年のは種開始予定日や今年産の出荷見込みなどについて報告があった。

農業普及課からは、昨年産の課題や出荷歩留まりが高かった生産者の栽培方法の他、今年産から使用するサイジング種子の試験結果を踏まえた栽培管理上の留意点等について情報提供した。

今年産祝だいこんのは種は、10月13日から始まる予定で、約50万本の出荷が見込まれ、農業普及課では、巡回指導やは種1か月・2か月後の生育調査を行い、栽培技術の情報提供を通じ、出荷歩留り向上について支援していく。(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)



【栽培研修会の様子】

■いちご 頂花房の花芽検鏡実施

9月1日～22日にかけて、当所土壌診断室において、いちご担当普及指導員が管内いちご苗の頂花房の花芽検鏡(約250株、延べ生産者数80名)を実施した。

いちごは、花芽分化後に定植(高設栽培で花芽分化前に定植している場合、花芽分化を確認後に液肥施用を開始)することが、生産安定のために重要であるため、実体顕微鏡により花芽分化状況を確認し、定植や液肥開始の時期について、生産者への指導を行った。

今年の花芽分化は、9月に入り気温がやや低めで推移したことから、品種間差はあるが、平年並～やや早めであった。

農業普及課では、今後もいちごの安定生産に向けた技術支援を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵、西部真太郎)

■栗 出荷始まる

山県市では、約60戸が栗栽培に取り組んでおり、9月に入って栗の出荷が本格化し、J Aの選果場も稼働し始めた。

今年は、昨年比7日程度落果が遅いものの、毬の付きも良いため、平年より収量が多いことが期待されている。また、同市生産者と食品会社との連携による商品開発も進められており、10月1日開催の「山県市ふるさと栗まつり2017」で披露される予定である。

農業普及課では、選別時の注意事項や害虫の発生状況等の情報提供を行い、高品質出荷へ向けた支援を行っている。

(地域支援第三係・宮木英有)



【選果場での選別作業】